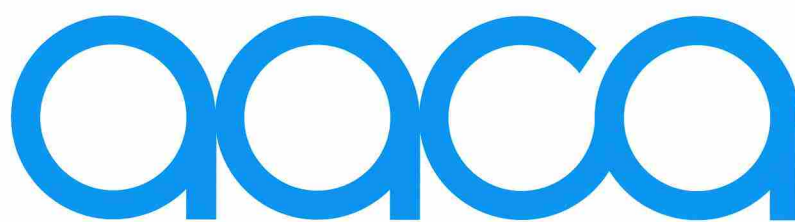
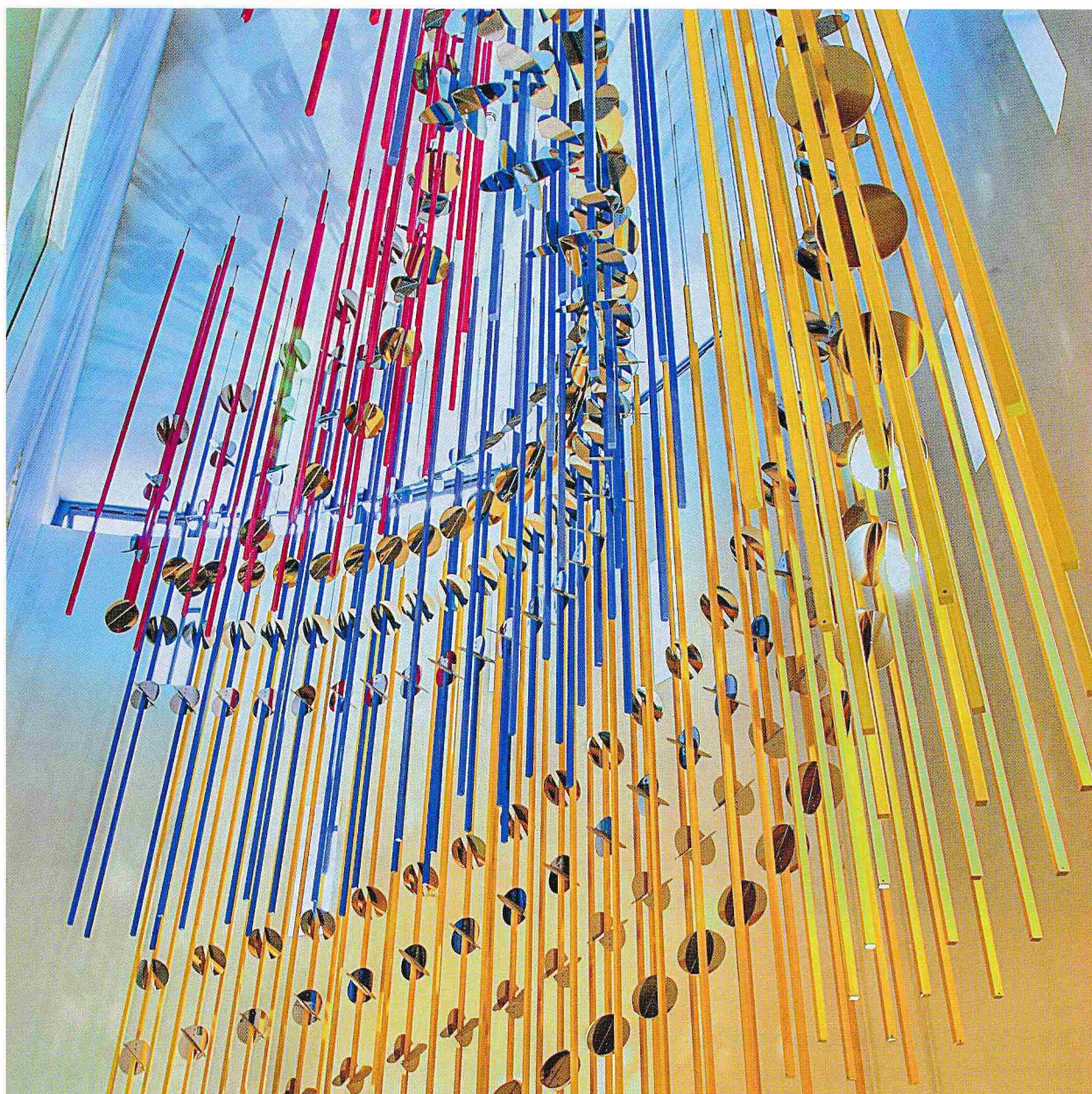


2018.4 no.79

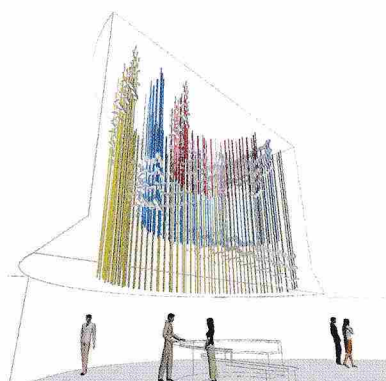


一般社団法人 日本建築美術工芸協会



AUROLA 2005 Kisa KAWAKAMI / 川上喜三郎 Reception / Hospital in Newcastle UK

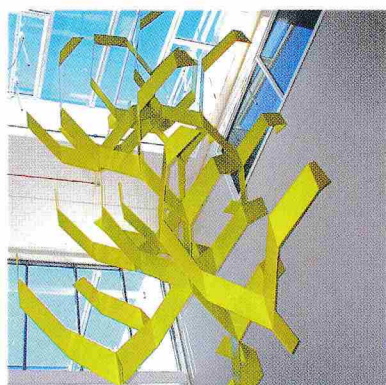
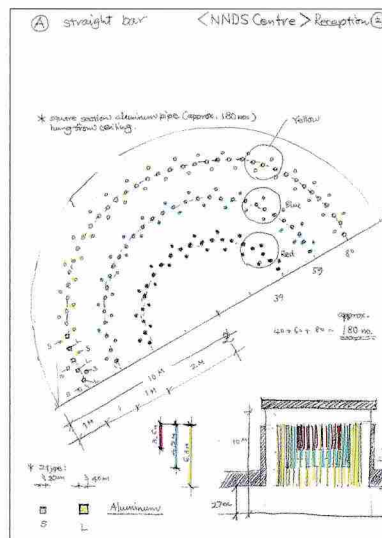




表紙解説

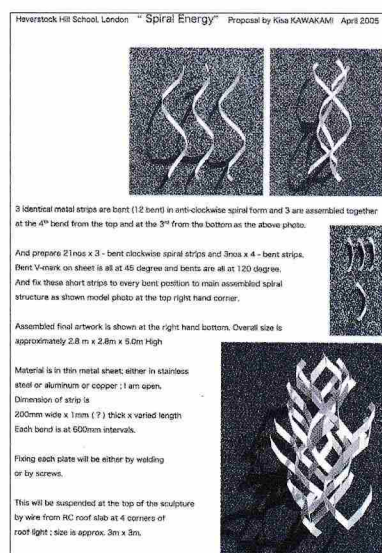
## AUROLA 2005 Hospital in NEW CASTLE, UK

英国随一の神経科総合病院である Walkergate Park Hospital のエントランスホールに設置された指名コンペの当選案である。身近な「自然現象」をアルミのパイプ、鏡面ステンレスプレートの組み合わせで抽象的に表現。2000年以降の Light, Shadow & Reflection シリーズの作品。右図；制作社へのスケッチの一部



## SPIRAL ENERGY 2004 Haverstock School LONDON!

英国中等教育の新校舎、吹き抜け玄関ホールの吊り彫刻。前号に紹介した SKY DANCE が設置された英国空軍博物館の設計者 Richard Fielden 氏からのコミッションでしたが彼が自宅の巨木を伐採中に事故で急逝された為、急遽彼のメモリアルに！イメージを重ね合わせオープンでエネルギッシュな螺旋の造型を彼に捧げます。



## OPEN CAGE 2006 DANCE FESTIVAL, TALIN, ESTONIA

壮大なスケールの合唱、舞踏の祭典はバルト3国、エストニアの誇り。中世の教会、廃墟は仮設の舞踏舞台に。ダンサー一人で動かせる可動の舞台装置 Shrine は若い僧侶、尼僧のための「光と影の住処」「開かれた籠」。舞踏題目は組曲「JOANNA TENTATA」。



川上喜三郎 王立英国建築家協会建築家 造型作家 aaca 会員

早稲田大学建築学科、同大学院修了。ジュエリー、プロダクトデザインから建築、アーバンデザイン迄をモットーにロンドンを拠点、日英欧米で活動。ロンドン市カムデン区役所集合住宅建築設計部 10 年を経て AA スクール教授 (1982 ~ 94)。複数のロンドン大学建築学科卒業計画の外部試験官 (1989 ~ 2004)、新国立劇場デザインアドバイザー、TAK 建築研究所との協働プロポーザルコンペで 3 連続最優秀賞；郡山市立美術館、東京都現代美術館、三鷹文化センター (1989 ~ 90)。日産スタジアム炬火台コンペ最優秀案設置 (1998)、京都迎賓館あかり計画。広域計画では三菱地設計丸の内再開発計画デザインアドバイザー (1998 ~ 2006)；屋内パブリックアート設置、日建設計大阪と協働；北梅田開発コンセプト国際コンペ最優秀賞 (2004)、グランフロント大阪日建設計アドバイザー (2008 ~ 13)、エストニア、タリン市音楽舞踏祭の舞台装置 (2010) など。



## CONTENTS

設立 30 周年記念事業ご協賛のお願い 岩井光男 4

### ■ 平成 29 年度 AACAA 賞・芦原義信賞

平成 29 年度 設立記念会・協会賞表彰式 5

平成 29 年度 AACAA 賞・芦原義信賞（新人賞）審査講評 6

平成 29 年度 AACAA 賞・芦原義信賞（新人賞） 7

平成 29 年度 AACAA 賞 優秀賞 8

平成 29 年度 AACAA 賞 特別賞・奨励賞 9

[AACAA賞] 近畿大学 ACADEMIC THEATER 畠山文聡 10

[芦原義信賞(新人賞)] ニフコ YRP 防爆棟・実験棟  
環境の揺らぎを取り込んだ開放思考の場 越野達也・森山茜 11

[AACAA賞 優秀賞] 桐朋学園大学 調布キャンパス 1 号棟  
山梨知彦 12

[AACAA賞 優秀賞] 星のや東京 清水聡・東利恵 13

### ■ 時代の華一輪

「そりのあるかたち」—澄川喜一先生におききする— 14

### ■ 第 4 回 街に飛び出す作品展

芸術性豊かな環境と景観の創造 安河内敦子 16  
帛屋 正

### ■ aaca 景観シンポジウム「都市に緑を・地下に光を」

「市ヶ谷の森」に期待する 今村創平 20

### ■ 第 60 回 aaca 講演会に参加して

田村慶太さん（梓設計）の自由をデザインせよ  
～ストレス・レスが生む新たな建築～を拝聴して 石原智也 21

### ■ フォーラム委員会だより

第 191 回 aaca フォーラム ペルシア絨毯 歴史と背景  
アリ・ソルマニエ・フィニ 22

### ■ 会員交流委員会だより

第 12 回 「山形・酒田・鶴岡地区建物視察会」に参加して 渡辺 賢 23

### ■ 事務局だより

24



▶▶ 5



▶▶ 14



▶▶ 16



▶▶ 20



▶▶ 21

# 一般社団法人 日本建築美術工芸協会 設立 30 周年記念事業ご協賛のお願い

30 周年記念事業実行委員会委員長  
岩井光男

当協会は昭和 63 年 (1988 年) 文部省の認可を得て設立され、平成 25 年より一般社団法人日本建築美術工芸協会として活動、平成 30 年 (2018 年) には設立 30 周年を迎えます。

また平成 30 年は設立者故芦原義信氏の生誕 100 年にもあたります。

この 30 年間、文化的都市の創造を実践するために建築・美術・工芸に関わるあらゆる分野の人々が集まり、連携し、そして交流を深めながら文化と芸術性の追求と情報の発信を行い、健康で文化的な空間創造に寄与することを目的として AACA 賞、景観シンポジウム、講演会、フォーラム、展覧会など継続的に事業を行ってきました。その間、阪神淡路大震災、東日本大震災を始めとする数々の天災やバブル経済の崩壊と世界金融危機による経済の低迷に見舞われながらも会員皆様のご支援によって発展してきました。当協会は平成 30 年を設立 30 周年と芦原義信生誕 100 年を記念する年として、記念事業を計画しています。

平成 30 年度は例年行われている事業を 30 周年に相応しいものにしたいと考えています。近年 AACA 賞は高い社会的評価を受けており、賞を受けるのはたいへん難しくなっています。30 周年では例年の賞の他に美術・工芸を対象にした「新たな賞」を設定いたします。さらに「最終審査」を公開いたします。景観シンポジウムでは第一線で活躍されている専門家の出演によってこれからの「環境とアート」について考えて行きます。展覧会委員会では専門領域を超えた会員参加による「BOX 展」、さらに「街なかミュゼ」では街に会員制作のアートを展示することによって街づく

りに参加する事業を計画しています。フォーラムや講演会も現在活躍されている「旬なアーティストやデザイナーの出演」が予定されています。

また「設立 30 周年記念誌」を発行します。内容はなるべく多くの会員皆様の参加によって鼎談、座談会、寄稿、各委員会の活動報告、さらに会員の皆様のアピアランスや広告で構成します。記念誌は 30 周年設立記念会 (平成 30 年 12 月 12 日) で皆様にお届けする予定でいます。これらの事業に会員皆様の積極的な参加をお願い申し上げます。

少子高齢化、人工知能、インターネット、国際化など私たちを取り巻く事象は人々の価値観をますます多様化して行くと考えられます。現代社会における建築、美術、工芸の分野もいまや全地球的なネットワークのなかにあり、多様な民族、地域で生まれた多様な文化に触れることが出来るようになりました。昨今の国内外の街づくりでは歴史的な建造物や街並みを生かしつつ現代建築とアートで魅力的かつ文化的多様性を感じる空間づくりが多くなって来ています。専門領域を超えた face-to-face のコミュニケーションが新しい空間創造には必要であると感じています。これからも当協会は会員の皆様とともに建築・美術・工芸一体となった景観づくりによって街の災害復興や活性化に寄与できればと考えています。

つきましては、30 周年記念事業の実りある推進とともに、この機会に当協会の基盤を一層強固にし、さらなる活動を進めるため、会員の皆様からの協賛活動に暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## ●個人会員の皆様へ

記念誌にご協賛者の 氏名を掲載	5,000 円
アピアランス 作品写真又、プロフィール、 主宰事務所紹介 等を掲載	10,000 円 (以上)

## ●法人会員の皆様へ

会社名の掲載	30,000 円
会社広告 (A8 版)	60,000 円
〃 (A6 版)	100,000 円
〃 (A5 版)	300,000 円 (以上)

お申込みは、FAX にて協会迄お送りください。  
請求書が必要な場合は募金事務局迄ご連絡下さい。  
領収書は、募金事務局にて確認後お送りします。

## <申込み期限>

第一次 平成 30 年 1 月 1 日より平成 30 年 3 月 31 日  
第二次 平成 30 年 4 月 1 日より平成 30 年 6 月 30 日

## <お振込み>

振込先: 三井住友銀行三田通支店  
店番号 623 普通口座 8089627  
東京都港区芝 5-26-20 建築会館 6 階  
一般社団法人日本建築美術工芸協会  
シンポジウム口座  
振込み手数はご負担ください。

アピアランス・広告等のデータ提出期限  
平成 30 年 6 月 30 日



# 平成 29 年度 設立記念会・協会賞表彰式

- 開催日 平成 29 年 12 月 13 日 (水曜日) 午後 5 時 45 分～
- 場 所 建築会館大ホール (東京都港区芝 5-26-20)
- 来 賓 日本建築家協会会長 六鹿正治様  
日本建築学会会長 古谷誠章様  
日本インテリアプランナー協会会長  
霜野 隆様
- 出席者 来賓・報道関係 8 名  
受賞者 18 名  
会 員・一 般 計 88 名
- 次 第 会長挨拶 会長 岡本 賢  
来賓挨拶 日本建築家協会会長 六鹿正治様  
選考結果 協会賞選考委員長 古谷誠章  
表 彰 会長 岡本 賢

## 岡本 賢会長 挨拶

本日はご多用な折、多数の皆様のご出席を賜り有難うございます。

特に、日本建築家協会会長 六鹿正治様、日本建築学会会長古谷誠章様のご出席を賜り、誠に有難うございます。

当協会は 29 年前、日本建築美術工芸協会は芦原義信先生により設立されまして、それを記念して毎年設立記念会を開催しております。この協会は芦原義信先生の理念のもとに、建築家・芸術家を中心として、建築とアートにかかわる分野の人たちが集まって、芦原先生の理念であります、「美しい都市景観、文化的な生活環境を造ろう」ということを目的に様々な活動、情報発信をしております。

会員の皆様方には、いろいろその活動に参加していただいておりますが、「AACA 賞」の授与がもっとも重要な事業の一つであります。毎年優れた建築とアート作品を表彰することで、ほかにも建築を表彰する賞がありますが、その中でもユニークな賞として根づいてきていると思います。

本日も数多くの作品の中から大変厳しい審査を経て優れた作品が表彰される事となりました。後ほど、古谷選考委員長より細かいお話がありますが、これだけの素晴らしい作品が表彰できることを大変うれしく思います。受賞者の皆様方には、心からお祝い申し上げます。この受賞をきっかけにして更に良い作品を引き続き創作していただきまして、社会に貢献して頂きますよう期待しております。

来年創立 30 周年を迎える事になりまして、30 周年記念事



業として様々な事業をさらに充実させて展開させてまいります。その事業の中でも一つ特徴的なのは、建築とアート作品が一体となって街の中に展開する、「街に飛び出す作品展」を企画し、何回か行って参りまして、まさしく協会の理念にふさわしい事業ではないかと思っております。既に実績もできてまいりましたし、これからもいろいろな作品が街の中で見て頂ける機会を増やしていけるよう、充実させる所存であります。どうぞ今日お集まりいただいた皆様方、受賞者の皆様も私ども協会の事業にご賛同を頂いて様々な事業に積極的にご参加いただければ大変ありがたいと願っております。

この後、懇親会もごございます。皆様方多くの方々とも話題を交流し、協会への理解を深めて頂きたいと願っております。本日はおめでとうございませう。

## 日本建築家協会会長 六鹿正治様 ご祝辞

本日は 29 回目の設立記念会、誠に有難うございます。私の所属いたしております、日本建築家協会は、今年 30 回となります。

30 年前に丹下健三氏を初代の会長として設立いたしましたので、ちょうど一年後に芦原義信氏を中心として設立された協会で、重ねてお祝い申し上げます。

本日は表彰される作品を見させていただきますと、建築そのものに賞を与えているのが目立っていて、建築とアートが混然一体となっている作品が必ずしも多くないと感じました。

一昨日、私の会でアート系のコンサルタントの皆さんと話し合う機会がありましたがやはり都会での大きなプロジェクトが多いのですけれども、意外とパブリックアート系のプロジェクトが出来ているのが目立たない状況で、この会にもディベロッパー系の会員が熱心に活動されていらっしゃるようですが、意外にも今、ディベロッパーさんはアート計画にひと時ほど熱心でないといいました。私たちとしてはぜひ建築とアートやクラフトが一体化した独特の素晴らしい空間が、日本の様々な都市の色々なところに出てくる事を期待したい訳でありまして、建築家協会としても同じ思いであります。今後なるべくそのような事をディベロッパーさんたちが熱意を持って頂くようお願いしたい。

なぜディベロッパーさんたちかという、プロジェクトを始める人、お金を出す人、そういう方々がアート計画・建築とアートの関係に熱意を持つ事が大事なのです。

勿論、建築とアートとクラフトのプロフェッショナル達も、ディベロッパーの方々にそういうものが大切で、そういったものが都市に様々な潤いを作るし、将来的に残る物を造ることを説くことが大切なのです。あわせてディベロッパーサイドの方々にも理解して頂けるようやることが大切と考えています。

今後日本建築美術工芸協会の活動が益々盛んになって都市に潤いを、思い出に残るような、あるいは孤立(?)の高い建物が出来ることを期待してご挨拶いたします。

本日は誠に有難うございませう。



# 平成 29 年度 AACCA賞・芦原義信賞（新人賞）

## 古谷誠章選考委員長 選考報告

応募作品は今年も大変バラエティに富んだものであり、大きな組織が真っ向から取り組んだもの、アトリエ的な作家が信念を持って挑んだもの、長い年月をかけて作り続けられたもの等々、いつもに増して多様な応募がありました。また、単にアートや工芸と建築との協奏という枠組みを超えて、作者がそれぞれにユニークな方法で独自の作品づくりを模索していることがはっきりと現れていました。そうした中で、経験に裏付けられた本格的な建築でありながら、同時にとても思い切った斬新なアクティブ・ラーニング空間を実現した《近畿大学 ACADAMIC THEATER》が今年度の AACCA 賞に選ばれました。角度を振って重ね合わされたグリッドが導く、魅力的な街路のような閲覧スペースに大胆に落とし込まれた中庭からの光が満ちて、豊かな活気を生んでいます。

芦原義信賞には、AACCA 賞を最後まで競った《ニフコ YRP 防爆棟・実験棟》が選ばれ、そのデザインにける並々ならぬ情熱に審査員が感服しました。既存の実験施設などをつなぐ、いわば補助的な施設でありながら、意欲的な構造計画と、巧みな空間配置の妙が相まって見事に芸術的な主役となっています。この両者に続く優秀賞3作品も三者三様の一筋縄で行かない強い個性があり、何れ劣らぬ力作だと思います。その筆頭が《桐朋学園大学 調布キャンパス 一号館》、徹底的にラワンベニアによる荒々しい打放しコンクリート表現にこだわり、力強くまた効果的に組まれた梁のパターンも合わせて、空間に重量感と同時に静かな流動感を生んでいます。同じく優秀賞の《星のや東京》はオフィスと商業が混在する新しい東京大手町の一角に姿を現した、

日本をテーマとした旅館です。いわゆる伝統的な「日本旅館」とは趣きが異なりますが、ゲストに心地よい驚きをもたらすアミューズメント性に満ちています。畳や無垢のヒバ材などを始め、質感の協奏が圧巻です。優秀賞のもう1点は、牡蠣殻を混入してつくられたコンクリートブロックが円筒状に積み上げられた《一華寺無尽塔》で、墓所に併設された礼拝のための施設です。素材に対する飽くなき探求が実を結んだ、建築自体が工芸品のような極めてユニークな作品でした。

これに対し、特別賞2点《四国八十八ヶ所ヘンロ小屋プロジェクト》と《洗足池の家/MONOLITH》は、片や構想以来20年以上の歳月をかけて、一つ一つ地域の人々に呼びかけて紡ぎ出されるようにして生み出された、いく先々でお遍路さんをサポートする小屋を、すべてボランティアによって創り出すという、行為そのものが現代の参加型アート、他方は極限まで突き詰められたディテールによって、飽くまでストイックに建築づくりを行う至高の作品づくりと、まったく正反対の性格を持った作品です。共通するのはいずれもひたすら脱帽させられるというところでしょうか。

最後に奨励賞1点《特別養護老人ホーム 成仁ハウス 100年の里》は、入居者の人間的な視点に立って、共に暮らすことに楽しさを感じさせる平面計画がよく練られており、三階建てでありながら、戸建ての連続を感じさせるような分節のデザインが奏功した佳品です。



受賞者・選考委員



## ■ 第27回 AACA賞 受賞作品

### AACA 賞

#### 「近畿大学 ACADEMIC THEATER」

作 者： 島山文聡・岡俊徳・伊藤裕也  
((株) NTTファシリティーズ)

所在地：大阪府東大阪市小若江 3-4-1



撮影：株式会社エスエス大阪支店



### 芦原義信賞 (新人賞)

#### 「ニフコ YRP 防爆棟・実験棟」

作 者：(株) 竹中工務店 越野達也  
テキスタルデザイン 森山 茜 (Studio Akane Moriyama)

所在地：横須賀市光の丘 2568-5



撮影：小川重雄写真事務所 小川重雄



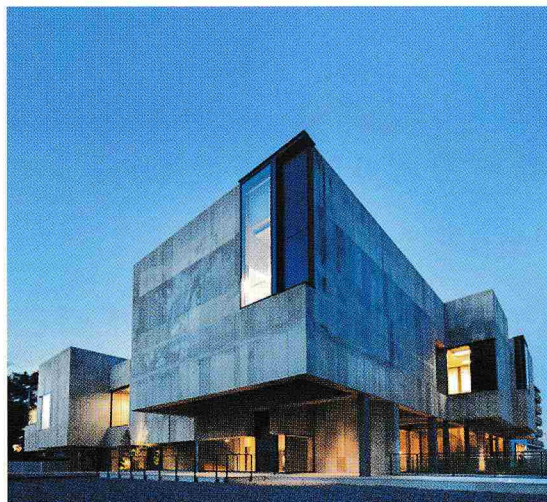
AACA 賞 優秀賞

## 「桐朋学園大学 調布キャンパス1号館」

作 者：山梨知彦+羽鳥達也+笹山恭代+石原嘉人（㈱日建設計）  
所在地：調布市調布ヶ丘 1-10



撮影：雁光社 野田東徳



AACA 賞 優秀賞

## 「星のや東京」

作 者：(株) 三菱地所設計 林総一郎  
東環境・建築研究所 東利恵  
(株) NTTファシリティーズ 一法師 淳  
所在地：千代田区大手町 1-9-1

撮影：川澄・小林写真事務所、  
(株)ナカサアンドパートナーズ

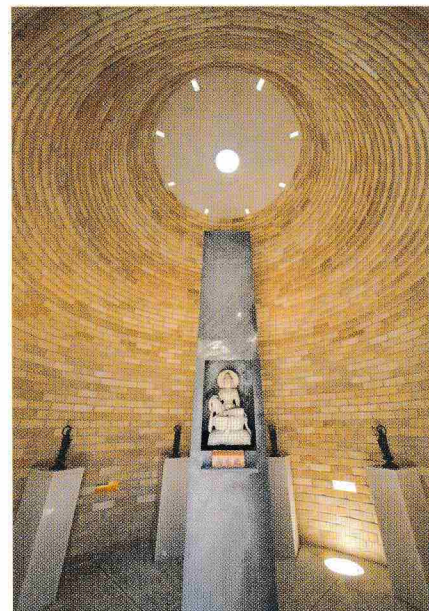
AACA 賞 優秀賞

## 「一華寺 無尽塔」

作 者：宮森洋一郎  
(宮森洋一郎建築設計室)  
所在地：広島県呉市西中央 5-7-1



撮影：尾藤公生







撮影：歌 一洋

AACA賞 特別賞

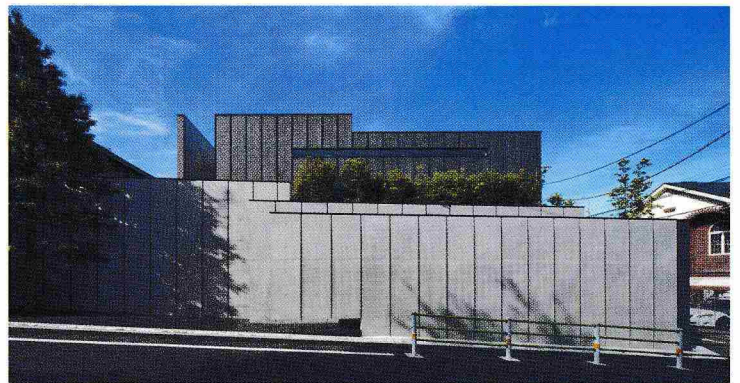
### 「四国八十八ヶ所へんろ 小屋 プロジェクト」

作者：歌 一洋建築研究所 歌 一洋  
所在地：四国四県 各所

AACA賞 特別賞

### 「洗足池の家/MONOLITH」

作者：城戸崎博孝  
所在地：東京都大田区南千束1-27-3



撮影：45g Photography 小島純司

AACA賞 奨励賞

### 「特別養護老人ホーム 成仁ハウス 百年の里」

作者：(株)内藤将俊建築設計事務所 内藤将俊  
(株)佐藤総合計画 前見文武  
所在地：岩手県大船渡市立根町字宮田9-1



撮影：小川泰祐





# 近畿大学 ACADEMIC THEATER

株式会社 NTT ファシリティーズ  
関西事業本部エンジニアリング&コンストラクション事業部  
コンストラクション部  
島山文聡



社会の諸問題は複雑化・多様化している。

これらに対し、文理の垣根を取り払い社会の諸問題を解決に導くための「新たな形質としてのキャンパスデザイン」に取り組んだプロジェクトである。

カテゴリ化された学術を遊離・融合し、かつ固定化させない空間・キャンパス・都市の在り方を模索した。リゾーム状につながるネットワークと離散と集合を重ねる空間は、キャンパス全体としての活気ある風景と個性的固有性を生む。

ピクチャレスクな建築ではなく、図と地が反転しつづけ、身体性と精神性に呼応し、気配がうつろう。うつろう様相はセンシビリティを刺激する環境建築としても寄与する。表層的デザインとしてではなく、「社会問題」「地方創生」「環境」「精神性と身体性」「自然発生的多様性」に対してアプローチした。

近畿大学東大阪キャンパスは2万人以上の学生と教職員が行き交う超高密度キャンパスである。建築が所狭しと立ち上がりその隙間を縫うように、ヒューマンスケールの路地的空間や建物のクランクから生まれたポケットパークが広がり、至る所で学生の賑わいが幾層にも重複する。

この都市的界限性と偶発性を開かれた空間に取り込むことで、学術環境が社会化され、利用者の創造性と感性が異なる価値観や分野と関係を構築する場を目指した。

近畿大学 ACADEMIC THEATER (1～5号館) は大学キャンパスの建替計画である。既存施設の再編として、建築単体としてのデザインではなく都市の様相を有する5つの群体としてのデザインを試みた。

建替対象建物の用途を讀解き、大学の本部機能を集約したワークプレイスと国際化推進エリア (1号館)、学生の多目的ホールと社会連携窓口 (2号館)、教室と自習室 (3号館)、そしてアメニティ空間としてのカフェ・ラウンジ (4号館) を計画敷地の4つ角に隣接する環境と呼応するように配置した。

さらにこれら4つの建築の隙間を多様な学習環境をつむぐ新たな学習空間としての5号館がつむぐ。5号館は「本 (閲覧)」

と「活動 (ACT)」と「自然 (吹抜)」を縦横4本の帯状の空間に配列複製した。

この帯が10°ずつ傾きながら互いに編み込まれることで空間は分節と統合を繰り返す。帯状の空間は4つ角の建築と屋内で連続し、結合部で各々のプログラムを巻き取るように ACADEMIC THEATER 全体はサーキュレーションする。

また、ACADEMIC THEATER 及び隣接する国際学部棟では外装材として木格子・ネットフェンス・木化チップといった建築要素を棟をまたいで分散配置し、マテリアルが折り重なる風景を創出した。

木質風景が棟をまたいで複層し、柔らかな表情を持ったネットフェンスがキャンパス内に浮遊する。

ステンレスの屋根群は時の移ろう風景が柔らかく映り込み東大阪の街並みへと連続する。

天井に漂うオーガンジーや次の間へといざなう光のスリットは固定化された空間に流れを生み出す。

個々の建築デザインとしてカテゴリ化されない動的な建築を目指した。

そこでは「全体性と固有性」「非均質性と均質性」を両義的に備え「散策性/街性」が立ち現われている。学術風景は「偶発的・自然発生的・同時多発的・祝祭的」に溢れ文理の垣根が取り払われる。

本プロジェクトは建築や都市デザインの領域を超えて、新たな大学の在り方を問う取組である。



本・活動・自然が重複する5号館



学習空間を漂うオーガンジー



積層された木化チップからの木漏れ日



街並みへと連続する学術風景

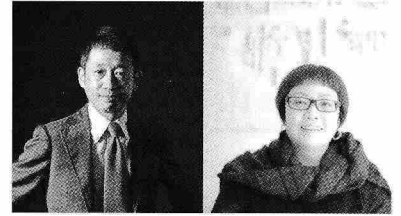
撮影：株式会社 エスエス 大阪支店



## ● AACA賞 優秀賞

# 星のや東京

株式会社三菱地所設計  
建築設計二部 ユニットリーダー 清水 聡  
東環境・建築研究所  
代表取締役 東 利恵



東京に日本旅館を作る、それが「星のや東京」のテーマだ。この計画は大手町連鎖型再開発の3次事業として都市再生特別地区の適用を受け、隣接するオフィス街区と一体に整備され、国際水準のサービスを提供する宿泊施設との位置づけとなっている。このような中で、「旅館」という日本の独自の宿泊施設を現代に適応進化した形で表現することを考えた。

150m超のビルが林立する大手町のオフィス街の日常に対する非日常の建築として、江戸小紋のスクリーンで覆い、「ビル」としてのファサードを消し、「重箱」のような柔らかみのあるファサードを目指した。江戸小紋柄の「遠くから見ると無地に見えるが、近くからは繊細な模様が浮かび上がる」という効果によって、大手町を歩く人たちは遠くからは黒い箱、近くからは繊細なファサードとしてこの建築を楽しむことになる。宿泊者は窓越しに小紋柄が浮かび上がることで直接周囲のオフィスと見合わない関係となる。低層部はガラスを中心としたファサードとして内部の造作と外装とのモジュールを合わせることで丸の内の象徴でもある「仲通り」に旅館の非日常が表出し、オフィス街に新しい風景を作りだした。

一階は、5m強の高い天井、栗と竹の家具、畳が日本旅館の非日常の導入部として玄関を作り出している。ゲストはEVから廊下、客室まで畳の上を歩いて行くことになる。靴を脱ぐという日本ならではの行為を畳で象徴的に表現し、その結果、内部空間の日本的なパブリックの感覚を表現できると考えた。

各客室階には6室の客室とお茶の間があり、一つの階が一つの旅館の単位となり、その単位が14層集積して旅館の集合体になっている。各階に女将に変わるスタッフがお茶の間を起点としてサービスを行っている。裸足のまま、部屋着のままお茶の間や廊下、大浴場などを行き来する事ができる日本的な空間での過ごし方を作る事が、ホテルとは差別化を図った現代的日本旅館になると考えた。

最上階にある大浴場は内湯と外湯がつながり、進んでいくと空が開けた露天風呂にたどり着く。風と音と空によって新たな東京を感じることができる。



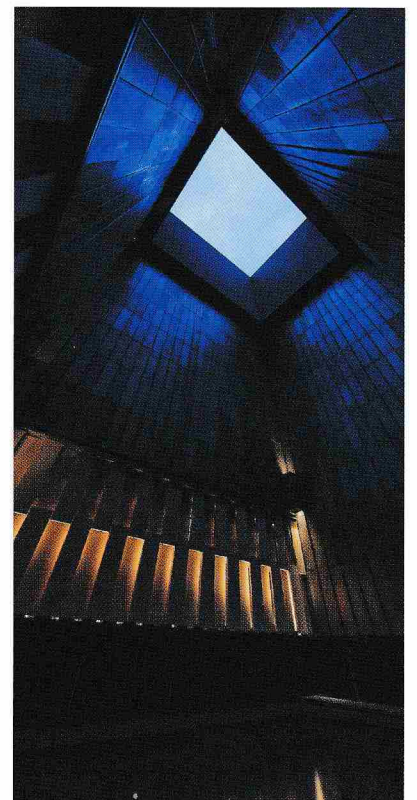
南東側外観 撮影：川澄・小林研二写真事務所



前庭と低層部外観 撮影：川澄・小林研二写真事務所



客室内観 撮影：川澄・小林研二写真事務所



17階大浴場吹き抜け見上げ

撮影：ナカサ&パートナーズ



## そりのあるかたち ～澄川喜一先生におききする

日本建築美術工芸協会  
名誉会員

澄川喜一



—AACA 賞を記念する彫刻を新しく作られたそうですが。  
澄川 はい、作りました。小振りにして受賞された方がデスクの上に置いて頂ければと思います。桐箱も付けました。

—AACA を創設された芦原義信先生との出会いは何時頃でしたか。

澄川 30年前だったと思いますが、藝大でパーティーがありました。私が美術学部長の頃だったと思いますが、尊敬する芦原先生にお目にかかりました。先生は「これからは建築家は勿論だが、美術家や工芸家も一緒になってまちづくりを益々発展させる為に、みんなで集まろうよ」とお誘いを受けました。

—若い頃から木造建築を勉強されていたとお聞きしましたが。

澄川 私は戦時中に小学校（当時は国民学校）を卒業し山口県立岩国工業学校（旧制）の機械科に入学しました。岩国市を流れる錦川（一級河川）に架かる名橋錦帯橋に魅せられスケッチを続けていました。

木造橋の木組みの匠みさに驚き感心しました。桧や松など数種類の木材を適材適所に使い構造自体が無駄の無い美しいデザインになっていることを知りました。

周辺の水や山を背景に五つのアーチ橋は見事な絵のように建築家が彫刻家になりたいと思い始めました。

昭和25年9月14日、キジア台風が襲来しいつも静かに流れる錦川が激流となり、私の大好きな錦帯橋が目の前で荒れ狂う流れに呑み込まれてしまいました。

涙が止まらなかった事を覚えています。

水が引き名橋が突然姿を消した風景は名画の真中に大きな穴が開いたようで、今思い出すと錦帯橋は風景の中になくはない環境造形だったと思います。

—東京藝術大学を受験された経緯は。

澄川 日本古来の法隆寺を始め優れた木造建築を調べ始め、彫刻家になろうと思い始めましたが家族の賛成は得られませんでした。

工業学校在学中は美術部を作ったり市美術展で賞を頂いたり将来は美術系への進学が適しているのではと、校長先生が親たちを説得してくださいました。

昭和27年東京藝大彫刻科の平櫛田中教室に願書を出しました。運良く98名の受験者中18名の合格者の一人に選ばれました。

田中先生は80才でしたが、すこぶるお元気で（定年制が無かった）アトリエで制作中の私達の塑造作品をじっくり見て下さいました。そして「人の真似をするな、自分を探せ」と云われました。一生を通じての難しいテーマを頂きました。（ひらくしでんちゅう：明治・大正・昭和の近代木彫を発展させた彫刻家）

学部4年間は塑造（粘土）を中心に制作しつつ木彫も始めましたが、粘土で具象彫刻を徹底的に学ぼう指導されました。

—その頃復顔に携われたのでしょうか。

澄川 東大の鈴木尚教授（人類学者・縄文時代からの日本人の形質を解剖学の面から研究）のご紹介で科学警察研究所のお手伝いをしました。戦時中の防空壕（シェルター）から白骨（頭部の破片）が発見され犯罪の疑いありで、復顔することになりお手伝いしました。その頃は今のように3Dの投影などありませんでしたから、頭部の骨の破片を頼りに先ず頭部全体を石膏で復元し、表面の肉厚をデーターに添って



「風の塔」1997年。東京湾アクアライン、浮島人工島。鉄骨・セラミック貼



東京スカイツリーと「TO THE SKY」、澄川喜一先生



粘土で肉付けし生前そっくりと思われる顔を作りました。モニタージュ像により捜査の結果、不明者が発見されました。生前の雰囲気表現出来たのは具象彫刻の勉強をしていたお陰でした。犯罪捜査のお手伝いをした思い出です。

——スカイツリーのお話を。

**澄川** 東京墨田区業平橋押上の東武鉄道の貨物駅跡地に世界一の電波塔スカイツリーが誕生しました。設計は日建設計、施工は大林組の大仕事でした。私はデザイン監修としてお手伝いしました。

足元は正三角形でスタートし上部に向かって大小の鉄パイプを溶接で連結しながらしだいに円形に変化する特殊な構造に組み立てられています。見上げる場所によっては傾いて見えたり「起り」（ムクリ）や「そりのあるかたち」を見る事が出来ます。

世界に誇れるシンボルですから不思議な魅力ある美しい立ち姿になるようシンプルイズビューティフルがデザインのコンセプトになりました。そして法隆寺などの五重塔の心柱と同じく直径8mの鉄筋コンクリートの心柱が塔体の真中を貫いており種々耐震のため日本独自の特殊な技術で634mを支えています。

スカイツリーの周辺は安政の大地震や関東大震災、そして昭和の大戦争時の東京大空襲など重なる多くの犠牲者が出た場所です。それからの平和を祈る鎮魂の慰霊のモニュメントが生まれたのではないのでしょうか。

——彫刻の素材について。

**澄川** 榿など日本には素晴らしい木があります。「そりのあるかたち」をテーマに仕事をしていますが木を彫刻する時、耳を澄まして木の声を聞きながら、永年を育った木の持つ癖や特徴を生かすよう彫刻しています。木の知恵をもらい素直に「そりのあるかたち」をつくることかなァ。

（一人言）

——「そり」は日本刀にも通じるように思いますが。

**澄川** 日本の名刀の「反り」（ソリ）は単なる円弧ではなく力が入っている「反り」（ソリ）の美しさだと思います。「名刀」だけでなく日本には屋根の「反り」（ソリ）や「起り」（ムクリ）など学ぶべき「かたち」が沢山あります。

1993年ニューヨーク五番街の高島屋さんで「そりのあるかたち」の木彫を主にした展覧会を開催した時のことです。

最初に私の作品を見て「釘はどこだ」と聞かれました。日本の木造建築の柄組み（ホゾ）を説明しました。部分を組み立てているので分解出来る仕組みを説明しました。そしてコンパスを使う単なる円形では無く力のある「そりのあるかたち」を説明しました。「ジャパンだ」と拍手して呉れました。

これからも「そりのあるかたち」を造り続けたいと思います。

一生、人の真似をしない自分を探したいと思いますが…。

——AACA賞について、ひと言お願いします。

日本建築美術工芸協会が選考するAACA賞は国内のオンリー・ワンの優れた賞と思います。内向きでなく、外向きの企画。広報の充実が必要だと思います。

山陰線の「瑞風」特別ルームの装飾、京都迎賓館・貴賓室の入口設置の作品のお話など幅広くひろがりました。

〈澄川喜一先生プロフィール〉

東京湾風の塔（H90m）や、東京スカイツリーのデザイン監修を務めるなど、全国に野外彫刻・環境造形を多数手がける。

現在、文化功労者、日本芸術院会員、東京藝術大学元学長・名誉教授・顧問、新制作協会会員、日本美術家連盟会員、シンフォニア岩国名誉館長、平櫛田中美術館（井原市）運営委員、平櫛田中賞選考委員、朝倉文夫記念館・大分アジア彫刻展運営委員、現代日本彫刻展（宇部）運営委員、島根県芸術文化センター長、石見美術館館長、横浜市芸術文化振興財団理事長、岩国市名誉市民、六日市町名誉町民、清瀬市名誉市民、aaca名誉会員



東京スカイツリー夜景

撮影：内海敏晴



## 第4回 街に飛び出す作品展

# 芸術性豊かな環境と景観の創造

街なかミュゼ活動実行委員長 安河内敦子

aaca はアート作品が街を豊かにする活動として「街なかミュゼ活動」を展開しています。建築の内部及び外部空間や街並みに芸術・工芸作品を設置し、環境美化、人間性豊かな空間創造を積極的に展開していこうとする活動です。毎年開催される「街に飛び出す作品展」に出品された作品の中から建物所有者に提供していただいたスペースを展覧会場に見立て、作家作品を1年間展示し「街なかミュゼ」と位置づけ展開しています。

「第4回 街に飛び出す作品展」では、南幸町3丁目計画・宮崎町計画・猫実4丁目計画・新橋5丁目計画・六角橋2丁目計画・目黒区東山3丁目計画・フレール大塚計画のスタートCAM(株)が建設した7プロジェクトに37作品の応募がありました。平成29年10月21日～28日まで建築会館ギャラリーにて「第4回 街に飛び出す作品展」として展覧会を開催しました。今回は推薦選考委員があらかじめ各プロジェクトに作品を推薦し、展覧会会期中、推薦コメントを参考にしながら設計担当者のアドバイスの中で、オーナー様に作品をじっくり検討していただきました。レセプションパーティで岡本賢会長の挨拶、オーナー様、スタートCAM(株)直井秀幸社長、選考委員の紹介があり、選考された作品11点(10名)を発表しました。選出された

作家には、推薦状とスタートCAM(株)からの副賞が手渡されました。



### < 選考候補作品 >

- ① 南幸町3丁目計画  
池田 嘉文 海洋地形学の物語  
鈴木 法明 小さな指揮者(一寸まってね)  
重田 恵美子 FLOW 2006
- ② 宮崎町計画  
加藤 恵利 Bloom-芽吹く 小原 輝子 日時計
- ③ 猫実4丁目計画  
井上 勝江 魅惑
- ④ 新橋5丁目計画  
井上 勝江 もののあわれ
- ⑤ 六角橋2丁目計画  
神 まさこ 陰陽五行
- ⑥ 目黒区東山3丁目計画  
渡辺 雅夫 遠い憧憬 堤 一彦 夢をみる種子
- ⑦ フレール大塚計画  
川原 昭 芽ばえ

## 推薦選考審査総評

昨年に引き続いて「第4回 街に飛び出す作品展」が10月21日～28日まで建築会館ギャラリーにおいて行われた。この展覧会は法人会員会社スタートCAM(株)が設計施工で建設中の東京都内5カ所、川崎・横浜市内2カ所計7カ所の物件に屋外・屋内にアート作品を設置することによって、それぞれの空間をより魅力的な雰囲気に包まれたものにするを目的にした運動である。

今回作家の方達から応募された作品の数は立体が15点、内3点がマケット。平面の作品は22点であった。これらの作品は選考委員が7件の建物全てを実際に見学し、それぞれの建物の環境がどのようなものか、またエントランス周り、そして内部が如何なるものかを見学し、後日出展希望者にお集まりいただき、建物の説明をする機会を持った。空間がこうであるからこのような作品が望ましいということである。しかし、お集まりいただいた方は10数名であった。何故こんなに少ないのだろうか?何が問題なのか?aaca

## 第4回 街に飛び出す作品展 推薦選考委員長 厩屋正

のホームページから、これらの建物について建築図面及び完成予想パースが見られるようになってきているが、実際どの位の数の方がチェックされたのであろうか。作品の採用が決まった作家は殆どの方が建物情報を見ておられなかった。作家にとって秋は大変忙しい季節であることは承知しているが、「街に飛び出す作品展」は初夏の時期からアナウンスをしているのだが…。

今回は作品展示期間中に建物のオーナーの方には希望の作品を事前チェックしていただいております、その際選考委員からの推薦作品についてご説明をし、最終日に設置作品を決めていただいた。

設置が決まった作品は1年間展示をしていただき、その後買取にするかどうかをきめることになっている。過去の事例では約8割以上の作品は買い取りになっている。

今後も続いていく行事なので、益々の発展を願っており、関係者の更なる努力が求められている。



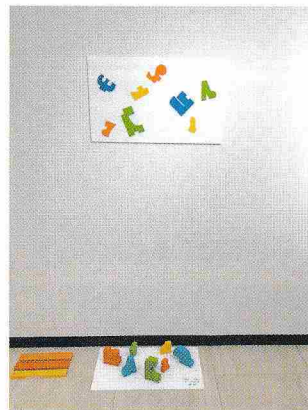
第4回 街に飛び出す作品展 作品リスト



池田嘉文 (会員) 海洋地形学の物語  
FRP (強化プラスチック着色)  
W=124cm × H=177cm



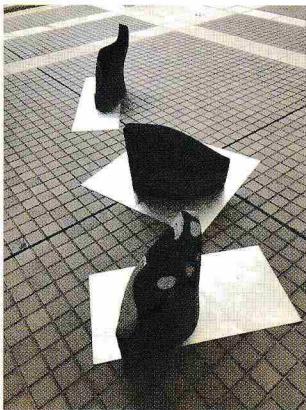
白野順子 (会員) 天使の魅惑  
絹  
W=53cm × H=53cm



加藤恵利 (会員) いっしょにあそぼ  
ベニヤ板 水性塗料  
W=3.5 ~ 9.5cm × H=7 ~ 13.5cm  
(1/5 マケット)



加藤恵利 (会員) Bloom - 芽吹く - 鉄  
W=8 ~ 13cm × H=5.5 ~ 10cm × D= 8 ~ 13cm (1/10 マケット)



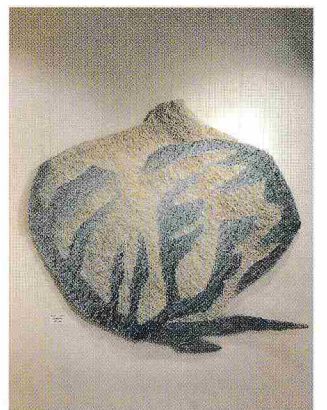
野口真理 (会員) であう  
陶土・粉漆・金属箔  
W=62cm × H=59 ~ 37cm × D=27 ~ 23cm



吉野ヨシ子 (会員) 陽の詩 (ひなのうた)  
金属  
W=120cm × H=270cm × D=50cm



渡辺雅夫 (一般) 遠い憧憬  
広葉樹 (ウォールナット・神代ニレ・イチイ他) 漆喰/段ボール  
W=90cm × H=90cm



岡本直枝 (一般) 水の鼓動を聞く  
シルク・綿、その他の布  
W=165cm × H=180cm



岡本直枝 (一般) 歩歩Ⅶ  
シルク・綿、その他の布  
a : W=82cm × H=92cm  
b : W=76cm × H=96cm



岩佐敏子 (会員) コラボレーション  
キャンバス・木片・アクリル  
W=228cm × H=162cm



三上紀子 (会員) White Cube White Space スチールプロジェクト提案



渡邊たまえ (一般) 日日は好日  
ブロンズに着色  
W=45cm × H=28cm × D=23cm





渡邉たまえ (一般) 守りねこ  
テラコッタに着色  
W=30cm × H=45cm × D=25cm



犬飼三千子 (会員) 往にし方  
木版  
W90cm × H=60cm



山崎和子 (会員) Square on Time C  
布  
W=65cm × H=65cm



鈴木法明 (会員) 愛犬との一時  
チタン  
W=自由 × H=160cm × D=80cm



鈴木法明 (会員) 小さな指揮者 (一  
寸まってね) チタン  
W=120cm × H=129cm × D=50cm



小野寺恵美 (会員) CLAY WAVE  
陶土  
W=20 ~ 45cm × H=20 ~ 40cm ×  
D=20 ~ 30cm 5点組



信ヶ原良和 (会員) 空への想い  
アルミニウム・鉄  
W=200cm × H=230cm × D=180cm



信ヶ原良和 (会員) 緑風  
ステンレススチール  
W=130cm × H=210cm × D=5cm



星 素子 (会員)  
タイルに刻む (まちの記憶×言葉アート素ことば)  
美濃焼タイル プロジェクト提案  
(W=2000cm × H=2000cm × D=5cm)

六角橋の言葉アート素ことば  
ステンレス プロジェクト提案  
(W=2000cm × H=3500cm × D=13cm)



神 まさこ (会員) 陰陽五行  
木 (炭)・金箔・錫  
W=60cm × H=60cm



小原輝子 (会員) 日時計  
写真パネル  
プロジェクト提案





平山健雄 (会員) 光に集う子ども達  
ガラス・鉛椀 プロジェクト提案  
(W=60cm × H=287cm)



堤 一彦 (会員) 夢をみる種子  
カッターラ・白大理石  
W=75cm × H=80cm × D=60cm



堤 一彦 (会員) Mother Earth  
ゴールデン・トラパーティン  
W=200cm × H=80cm × D=70cm



上江洲牧子 (一般) 仲間  
ガラス・鉛椀 プロジェクト提案  
(W=60cm × H=287cm)



井上勝江 (会員) 魅惑  
紙  
W=80cm × H=60cm



宮野仁美 (宮野玄妙) (一般) 海からの  
インスパイア (鼓動) 画仙紙・墨  
W=100cm × H=100cm



神 まさこ (会員) Spiral  
陶器  
W=40cm × H=42cm × D=32cm



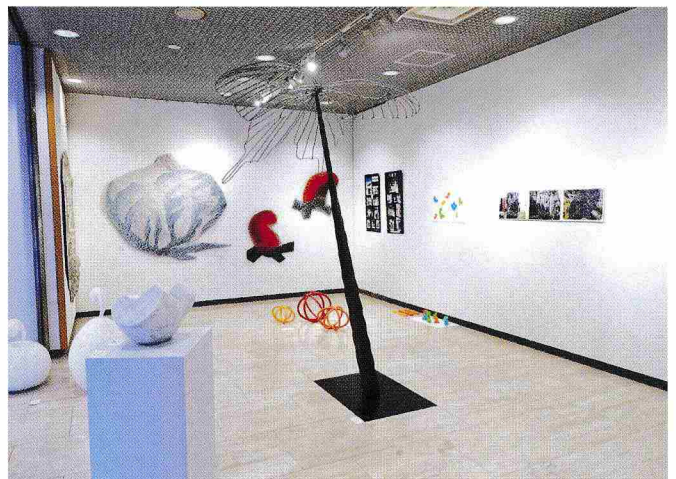
重田恵美子 (会員) FLOW 2006  
ステンレス  
W=40cm × H=145cm × D=40cm



浜崎ベア (会員) フローラ  
ウルトラスエード  
W=50cm × H=50cm × 3点組



川原 昭 (会員) 芽ばえ  
FRP  
直径 60cm × H=50cm 直径  
38cm × H=87cm



会場風景 1



### 「市ヶ谷の森」に期待する

千葉工業大学創造工学部  
建築学科 教授

今村創平



今日、日本の将来には大幅な人口減が予想されているにもかかわらず、多くの超高層ビルが都心をはじめ各地につくられ続けている。超高層ビルは、例えばニューヨークであれば誇るべき景観となっており、新興のアジアの都市でも繁栄の象徴として広く認知されている。とはいえ、それらがビジネス街に建ち並ぶ光景はすでに定着しているが、昨今都心部などで見られる低層の街中に突如立ち上がる様子は、これまでになかった現象である。そうした超高層ビルおよびそれに伴う都市開発が、景観的にどうあるべきかという議論は、これまでにほとんどなされていない。

問題はいくつかある。一つは超高層ビルがかつてほど特別でなくなっているため、デザイン性の低いものが増えてきている。もちろん、そもそも街中の建物にはデザイン的に凡庸なものが多いが、それが超高層ビルとなると周囲の景観に及ぼす影響が多大である。また、低層の街中に建つ場合は、建物のスケールのあまりの違いが、景観として違和感を生じさせる。それは、建物の分節やファサードデザインの工夫によってある程度の緩和は可能であるが、超高層ビルと周辺建物との間の緩衝領域の計画がとても重要となる。

超高層ビルを伴う開発行為を行う場合、足元にオープンスペースを設けて、周辺環境に寄与するという手法は、今日一般的なものである。特に、公開空地（今日では類似する様々な形があるが、一般名称として公開空地と記す）を設けることで、その分容積率のボーナスをもらうということが広く行われている。1968年とちょうど半世紀前に完成した虎ノ門の霞が関ビルは、日本初の超高層ビルとして知られるが、公開空地を設けた一例目でもあった。その後、事業性の向上を図ることができる公開空地の採用は定番の

手法として普及するが、そもそもは近隣への寄与を目的としたこの制度が単なる開発の道具になってしまい、実際設けられた空地は人気のない殺風景なものとなっていることがよくある。ビル所有者からすれば、公開空地はやむなく設けているものであり、管理に手間がかからず、そこでの活動などない方が好ましいのだろう。また、個別の街区で公開空地を設けたとしても、それらは近隣の環境とのつながりがなく、結局活かされていないというケースも多々見られる。

昨年秋の aaca 景観シンポジウムで紹介された「大日本印刷市谷工場整備計画」は、上記のような私のこころしばかりの問題意識に、とてもよく応えているプロジェクトであった。4、5階建ての小規模な建物が広がる市ヶ谷の街中において、既存の工場を取り壊し、新たにオフィスと工場を主用途とする超高層ビルを含む複合施設を建てる計画である。この計画にはいくつかの優れた提案がある中で、特筆すべきは地上部分に「市ヶ谷の森」と呼ばれる、2万㎡にもなる緑地を設け一般開放することである（現時点では、この緑地の過半である第3期工事は未着工。）その規模もさることながら、この森は、かつてこの地に自生していたような植生の再現を目指している。これは、超高層ビルの足元という、いかにもデザインされたクールな都市景観という、常套的な手法とは好対照の提案である。自然の森を目指しているため当然経年の変化も生じる。マニュアル化された管理方法では対処できず、手間がかかることは想像できる。一方で、日々成長する木々の緑は、ここで働く人たちや訪れる人たちに対して、同じ時間を過ごしているのだという心地良い感触をもたらすであろう。

こうした緑化を重視した姿勢は、環境とエネルギーの時代にあっては当然であるが、今推奨されている屋上緑化や壁面緑化という、建物に自然を無理に付加する方法は、本質的なところで解決に至っていないという疑念がぬぐえない。植物に無理をさせている様子は正直痛々しい。やはり、木々が喜ぶような環境があり、そこに育つ生き生きとした緑とともにあることで、私たちは活力をもらったり癒されたりするのであろう。

建物は完成したものの、「市ヶ谷の森」はようやく始まったばかりであり、この後年月をかけてどのように成長していくのか、見守りたいと思う。



DNP 市ヶ谷加賀町ビル



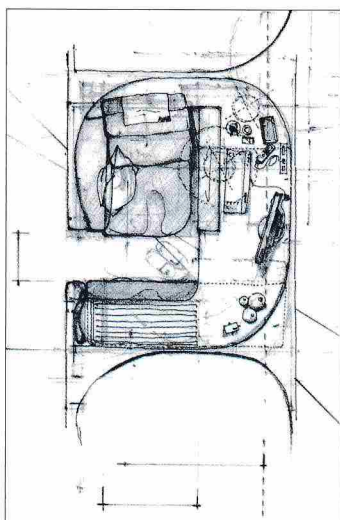
## 第 60 回 aaca 講演会に参加して

# 田村慶太さん（梓設計）の自由をデザインせよ ～ストレス・レスが生む新たな建築～を拝聴して

株式会社 NTT ファシリティーズ  
地域創生室  
石原智也

「名前で出迎えられるとうれしい」(ANA SUITE CHECKIN)  
「空港に自分の基地」(ANA Personal Booth)  
「目があって落ち着かん」(ANA Lounge)  
「悲しみが少しでもやわらいだらいいのに」(浦安市斎場)  
「新しい趣味発見」(蔦屋書店函館)  
「犬の気持ち…って?」(レジャーリゾート旧軽井沢)  
「また旅に出たいな」(Los Angeles International Airport)  
「頭をからっぽにしたい」(Power Lounge)

これらは、田村さんが講演で紹介された各作品の説明につけられた言葉です。それは、その場所を訪れたひとに感じてほしいことであり、そう感じることでストレスがなくなる、あるいは少なくなることが期待されています。たとえば、福岡空港の ANA ラウンジでは、「目があって落ち着かん」と、いかにもストレス・フルな言葉がつかわれていますが、搭乗待ちの時間を少しでもくつろぎたいゲストのために、限られたスペースでお互いの視線があうことがないように、左右非対称のソファを発明することで解決しています。講演の題名にある「自由をデザインせよ」とは、ゲストの気持ちの変化を想像し、小さなストレスを見つけてつぶすこと。この、行動を予測してデザインを決めることを「FREE MIND DESIGN」別名、リモコンデザインと田村さんは名付けています。映し出されたスライドにはありふれたソファ、その背面には小さなスイッチがついていて座ってくつろいだままスイッチに手がとどく。だからリモコンデザイン。つかうひとが建築にあわせなければいけないのではなく、ひとの動きにあわせて用意された建築。これが「自由なデザイン」なのです。

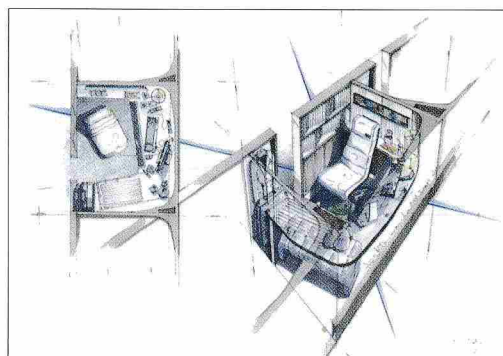


株式会社 梓設計 田村慶太

「空港に自分の基地」は、成田空港で国際線の時間待ちを過ごす個人ブースをデザインしたもの。田村さんの手によってなめらかに描かれたスケッチは、家具をデザインするというよりも、それを利用するひとの動く軌跡を描き出したものであり、「自由なデザイン」はひとの手によってこそ生み出されることが伝わってきます。講演の終盤で、「一緒にスケッチしてみませんか」という言葉があらわれて、やっぱり!とほくそえみしました。田村スタジオでは、スケッチブックを会社のパンフレットにしている、スタッフの手によって自由なデザインが生み出されていることがそのままアピールされています。

浦安市斎場や蔦屋書店函館では、利用する人の動きとその場所での心の動きを想像して、建築全体の構成が考えられています。浦安では、大事なひととの時間を思い出して歩く遺族の心の動きによりそうように、いくつかの中庭が設けられています。函館では、専門図書を買いきたひとにも、本を買わないひとにも自由に訪れる、子どもたちが本に触れながらかけまわることができる、多様な空間が用意されています。

田村さんのストレスのない“自由”のデザインは、ユニバーサルデザインとどう違うのか質問してみました。「ユニバーサルデザイン」は、『プラスマイナスゼロ』のイメージがある。ストレス・レスは個人個人によって違うものであり、ひとくくりにするのではなく、もっとプラスにもできるのではないか。」という答えがかえってきました。ひとの手の動きから生み出されるデザインが、ひとにとって居心地のよい“自由”なデザインに結びつくのだと、腑に落ちる気がしました。IoT や AI が人類がこれまで経験してきたことすべてを計算して結果を示すような時代にあって、手触りのデザインのちからを信じて突き進む田村さんのお話を聞いて、身体と心がひとつになる元気がでたような気がしました。



株式会社 梓設計 田村慶太



# フォーラム委員会だより

## 第 191 回 aaca フォーラム

### ペルシア絨毯 歴史と背景



千代田トレーディング（株）会長  
アリ・ソレマニエ・フィニ

絨毯の起源は羊を放牧していた遊牧民に求められる。彼等は羊の皮を敷物や衣服として使っていた。羊の毛を刈り、糸の紡ぎが出来るようになって平織りが可能となり、徐々にパイル織の絨毯が織られるようになった。

羊毛も他の天然繊維も永い年月が経つと朽ちてしまうため、古い絨毯は殆ど残っていない。1949年以前に発掘された最も古い絨毯は、9世紀のものでエジプトのフォスタト（Fustat）で見つかり、その後13世紀の絨毯数枚がトルコのコンヤで発掘されたくらいであった。これらの絨毯はイスタンプールのイスラム博物館が所蔵している。

1949年ロシアの考古学者ロデンコがビイスクから南東約200キロメートル離れ、外モンゴルから80キロメートルのアルタイ山脈の麓にあるパジリク古墳のサカ族の王の墓で、200cm×183cmの絨毯を凍っている状態で発掘した。ロデンコによるとこの絨毯はアケメネス王朝の時代のもので、B.C400年にイランの東ホラーサン地方で織られたものと推定された。その後、コズロフによってシベリアのノインウラで氷土の中から絨毯の断片一枚が発掘された。この断片は年数が刻まれた箱に入っていて、西暦3年のものと判定されている。パジリク絨毯とこの断片はロシアのエルミタージュ博物館が所蔵している。

その後長い間、古い絨毯が発見されず絨毯の存在を歴史書や旅行記から想像する事しか出来なかった。

特にササン朝時代（A.C227～651）の絨毯は殆ど最近まで見つかっていなかった。しかし、この10年の間にイランの東の地域で見つかったパイル織の断片がヨーロッパのオークション等に出て、それらをカーボン14で試験した結果ササン朝時代のもので判明した。これらの断片は、新しくできたクウェイトの博物館が所蔵している。

世界の美術館や個人のコレクションからもわかるように、サファヴィー朝（1501～1722）はペルシア絨毯の最盛期であった。この時代には、カシャン、イスファハン、タブリーズ、ヘラート等で王室工房ができ、ペルシア絨毯の歴史で最も優れた作品が沢山製作された。

シャー・タハマスプ1世（在位1524～76）の年代が織りこまれている名品がある。その絨毯はミラノのボルディ・パッツォーリ美術館が所蔵しており、ギヤソッディン（GHIASODDIN）作のメダリオン狩猟文絨毯で1522～23

年作と織り込まれている。

シャー・タハマスプ1世時代の最も有名な名品はアルデビル絨毯である。この絨毯は対で製作されたもので一枚はロンドンのヴィクトリア & アルバート博物館、もう一枚はロサンゼルス郡立美術館が所蔵している。この絨毯には1539～40年と、製作者マグスード・カシャニーの名前が織りこまれている。

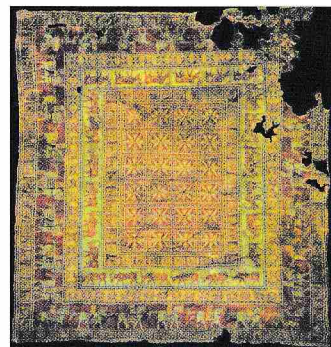
シャー・タハマスプ1世の後、アッバス1世（在位1588～1629）の時代は、特に芸術に力が入りペルシア絨毯の黄金期といえる。

MIHO MUSEUM所蔵の16世紀サファヴィー朝時代のメダリオンコーナー狩猟動物闘争文様の絨毯604cm×322cmは逸品である。この時代の最も素晴らしい作品の一つといえよう。ポーランドのサングスコ王家が所有していたので、この絨毯はサングスコ（SANGUSZKO）絨毯として有名である。

8世紀～10世紀にかけての国の財務書類によると年間数千枚の絨毯が税金として国に納められていたことがわかる。

19世紀後半のヨーロッパでアニリン染料が発明され、イランの絨毯づくりにも大きな影響を及ぼした。それまで手で紡いでいた糸の代わりに機械で紡績した糸が使われるようになり、商業化が進んでいった。徐々に本来織られていた地域や民族も崩れ絨毯のアイデンティティーが薄れていった。

近年、このような商業主義の絨毯が氾濫してきていることを憂い、本来の輝きを取り戻そうとする動きがでてきた。我々はこの動きをペルシア絨毯のルネッサンスと呼んでいる。



パジリク古墳出土約2500年前の絨毯 200cm×183cm



ソレマニエフィニ工房作品  
カシャン ゴレスタン 313cm  
×212cm



会員交流委員会だより

## 第12回「山形・酒田・鶴岡地区建物視察会」 に参加して

大成建設株式会社  
プロポーザル・ソリューション部  
日本建築美術工芸協会法人会員

渡辺賢



視察会は11月10日より2日間。1日目は日差し暖かい秋晴れの下、山形城址から天童へ。2日目は曇り空、時折強まる風の中、酒田から鶴岡へ。土門拳記念館の湖面はさざなみ、ざわざわと無音で揺れ続ける中庭の熊笹。日本海にせりだすように建つ加茂水族館の目前で砕け散る大波、まっすぐに歩くことができないほど吹きすさぶ潮風、時に電がバラバラと…1日目の穏やかさとは対照的な天候と環境。両日共に、訪れたそれぞれの場所の記憶と体感が切り離しがたく結びついています。山形の風土と建築を体感したとても刺激的な視察会でした。

### 旧済生館本館

山形駅よりバスで山形城址公園へと向かう。暖かな日差しの下、南門から堀を渡って、徒歩数分。色づく木立の向こうに明るい色彩の3層楼が現れた。文明開化の熱さめやらぬ明治初期に山形県立病院として建設された下見板壁の擬洋風建築。原型が大きく損なわれていた昭和42年に、職人の努力と技術によりこの地へ移築復原されたとのこと。中庭のあるドーナツ型の低層部の北側に4層の高層部というユニークな構成。

### 山形美術館

東大手門から城址をでると、木立の向こうにおおらかな大屋根。山形の伝統的な民家形式を規範し、地に根差した力強い形態。

### 山形県郷土館「文翔館」(山形県旧庁舎)

大正5年に建てられた英国近世復興様式のレンガ造りの建物。10年の歳月をかけて当時の工法で忠実に復原された細部が素晴らしい。正面バルコニーから南を眺めると、軸線上に山形市の中心部繁華街が続き、今もかわらず都市骨格の要を担う建物として建ちつづけていることに気づき、うれしくなった。



山形県郷土館「文翔館」(山形県旧庁舎)の前にて

### 水の町屋

かつて山形市街地には全長115kmに及ぶ水路が生活用水・

農業用水として網の目のように巡らされていたが、現在では暗渠化されてしまっている部分も多いとのこと。ここではその蓋を開け、親水空間として甦らせている。その流れに沿って配置された東北初の木造軸組耐火建築による商業施設と共に、中心市街地とは思えない気持ちの良い場所。この場所が契機となって、市街地全体に再び水路が巡り、新たな都市の風景として成長してゆく姿を夢見た。一路、天童へ。

### 天童木工本社工場

かねてより訪れて見たかった成形合板家具のパイオニア天童木工の工場。隅々まで工夫が凝らされ機能的な生産スペース。「ご縁と挑戦」という加藤社長の言葉に深く感銘。

### 山居倉庫

明治26年に米の保管倉庫として建造。夏の日射と冬の強い季節風をさえぎる西側の檜並木や二重構造の屋根、にがりと塩を用いた土間等、庫内の温・湿度を一定に保つため当時の建築技術の粋を集めた造りに驚く。

### 酒田市国体記念体育館

張弦梁とキャンチトラスによる極めてシンプルな構造システム。力の流れを視覚的に伝えながら軽快で美しい。

### 土門拳記念館

飯森山の山裾に寄り添うように建つ。前面の池が建築と背景の丘を映しこみ、地に深く根差した佇まい。展示作品に息をのみ、記録映像に見入った。時間を忘れる濃密な体験。



土門拳記念館の前にて

### 鶴岡市立加茂水族館

イベントプールをぐるっと囲む回遊動線。ゆったりと回遊するクラゲに癒された後は、階段状に連続する屋上広場より日本海の荒波を望む。

### 鶴岡市文化会館

ホールを囲む艶やかで透明な回廊空間。様々な可能性に開かれた、まちの新しい広場。オープンがとても楽しみ。



## 設立30周年記念事業実行委員会だより

AACA 賞受賞者紹介のつどい (第1回)	4月24日(火曜日) 18時～	株サンゲツ・品川ショールーム
芦原義信生誕100年記念杯ゴルフコンペ	5月25日(金曜日)	ニュー南総ゴルフ倶楽部
AACA 賞受賞者紹介のつどい (第2回)	6月4日(月曜日) 18時～	株サンゲツ・品川ショールーム
通常総会(記念講演)	6月7日(木曜日) 17時45分～	建築会館大ホール
国立歴史民俗博物館(芦原義信設計)見学会	6月8日(金曜日)	(詳細未定)
aaca フォーラム	6月(詳細未定)	(詳細未定)
調査研究講演会「パブリックスペースとアート」	7月(詳細未定)	(詳細未定)
会報80号	7月25日(水曜日) 発刊	
情報文化座談会「PART1 街並みをテーマに」	7月27日(金曜日) 18時～	東京大学弥生キャンパス

## 事務局だより

### ■新入会員・会員の異動 2017年12月～2018年2月(敬称略)

2016年9月 個人情報保護法の改正が成立した事を受け、個人は氏名のみ、法人は会社名・代表者又は担当者を掲載致します。

#### 《新入会員》

個人会員	宮森洋一郎(建築家)、歌 一洋(建築家)、城戸崎博孝(建築家)、内藤将俊(建築家)、木村慶太(大成建設)、松本哲弥(大成建設)、柏尾 栄(建築家)、眞嶋 聡(建築家)、栗田祥弘(建築家)、高木久美(アート・コンサルタント、ディレクター)、鈴木幹安(日本板硝子株)、神 芳子(工芸家)		
	法人会員	オバナヤ・セメントックス株式会社 取締役副社長 佐藤正徳	〒103-0001 中央区日本橋小伝馬町16-6 香取ビル3F TEL.03-3663-7641

#### 《会員の異動》

法人会員	(株)日本設計	担当者変更	技術管理部 安部 彩 (前任 岡崎道晴)
	ナブコシステム(株)	担当者変更	営業本部 開発営業部 部長 大川博史 (前任 本田 浩)
	(株)岡村製作所	担当者変更	市場開発部 松島 賢 (前任 横田一広)
	(株)横森製作所	担当者変更	顧問 鬼島良平 (前任 森 隆洋)

## 震災等による「芸術文化復興預金」への募金のお願い

2018年2月末現在 **133,137円**

協会では、東日本大震災以降、津波・震災・火災等により逸失した文化財及び地域文化の復興のため募金活動をしています。会員の皆様には活動やチャリティー活動等による売上の一部を募金に協力して戴きますようお願いいたします。復興預金口座は下記に記載いたしました。

ゆうちょ銀行 ○一九店 当座預金 口座名：AACA 芸術環境復興預金口 口座番号：0338383

### 編集後記

会報79号では、AACA賞、街に飛び出す作品展など数多く開催されました協会開催事業報告が会報のページを占めてしまいましたが、会報は会員の皆様の重要な発表の場でもあります。次号は80号という節目の会報ともなりますので会員の皆様の活動あるいは、協会・会報に向けてのご意見を是非お寄せください。

**aaca** 2018.4 no.79

発行人 会長 岡本 賢  
 発行 一般社団法人 日本建築美術工芸協会  
 〒108-0014  
 東京都港区芝 5-26-20 建築会館6階  
 TEL 03-3457-7998 FAX 03-3457-1598  
 URL <http://www.aacajp.com>  
 E-Mail [info@aacajp.com](mailto:info@aacajp.com)

編集 広報委員会  
 委員長 飯田郷介  
 会報担当副委員長 野口真理  
 会報編集委員 五十嵐通代 石田真人 竹生田正  
 田島一宏 中村弘子 松本治子  
 三上紀子 山崎和子 山崎輝子  
 山下治子

編集制作協力 株式会社 アム・プロモーション